

やまがた 商工連

● contents ●

- ・年頭挨拶 1
- ・表彰受賞者 2
- ・第51回商工会全国大会 3
- ・地域力宣言 2011 ニッポン全国物産展 3
- ・経営革新塾 3
- ・県議会議員との懇談会 3
- ・シリーズ元気な企業「よそのもの・わかもの・ばかもの」 4
- ・青年部・女性部活動コーナー 6
- ・販路開拓支援事業・商談会 7
- ・県内統一景況調査報告 8

年頭にあたって



山形県商工会連合会
会長 小野木 覺

会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。平成24年の年頭にあたり、清々しい新年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

さて、わが国経済は震災及び原発事故の影響を受け、急激な生産活動の低下や、風評被害による需要停滞に陥り、産業の空洞化等の問題が急加速しております。

それに伴い、会員企業を取り巻く環境も著しく変貌しており、地域にとつてなくてはならない総合経済団体である商工会が果たすべき役割はますます大きくなっていきます。

本県商工会は、経営改善普及事業はもとより、経営革新や創業支援、農商工連携など、個々の経営事情に対応した支援とともに、3ヶ年計画で展開してきた新アクションプランに取り組んでおります。特に、全国の商工会あわせて「行きます聞きます 提案します」のキャッチフレーズのもと、全職員一丸となった巡回訪問をより一層推進してまいります。

会員の皆様におかれましては、今年が明るい一年となりますよう心よりご祈念申し上げます。

平成24年 元旦

南陽・高島・川西 愛の郷 食の収穫祭2011+技のビジネスマッチング (東置賜商工会広域連携協議会)

11月9日(水)に南陽市交流プラザ蔵楽において、食と技の展示説明商談会である「愛の郷 食の収穫祭2011+技のビジネスマッチング」が開催されました。

南陽高島川西から30事業者が出展し、それぞれのこだわりや独自の商品を市内外から訪れたたくさんのお客様に積極的にアピールし商談しました。



年頭に当たって



全国商工会連合会
会長 石澤 義文

新年明けましておめでとうござい
ます。平成24年の新春を迎えるにあた
り、一言ご挨拶を申し上げます。

さて、昨年は、未曾有の被害をもた
らした東日本大震災や相次ぐ台風など
による災害など、極めて厳しい状況が
続く年となりました。

また、我が国経済全般を見ても、一部
には緩やかな回復が続いているとの
見方もありますが、歴史的とも言える
円高や欧州の信用不安などにより、先
行きは極めて不透明であり、特に、地方
の中小・小規模事業者を取り巻く経
営環境はかつてないほど厳しいもの
となっております。

こうしたことから、昨年11月24日に
東京で開催した第51回商工会全国大
会では、まずもって、東日本大震災から
の復興を期して、被災地に対する継続
的かつ強力な支援の実施とともに、地
方に活力を与える景気対策の実行や、
中小・小規模企業対策の拡充・支援
体制の強化等を、政府等に対し強く訴
えることを決議したところでありま
す。

一方、今こそ原点に立ち返り、我々商
工会には、二つの大きな使命があるこ

とを再確認する必要があります。

まず第一は、中小・小規模企業への
徹底した巡回訪問により、会員支援
ニーズを的確にとらえ、きめ細やかな
支援を実施することであり、二つ目は、
少子高齢化が進む中、合併によって、従
来の役場や農協などの機能が失われ、
限界集落が発生するなど、疲弊を極め
る地域コミュニティの維持活動を積
極的に展開することであり、

地域に根差した、唯一の総合経済団
体である商工会が、「行きます聞きま
す提案します」のキャッチフレーズの
もと、巡回訪問を一層強化し、地域コ
ミュニティを守る最後の砦として、防
犯・防災活動、高齢者福祉、伝統文化の
継承も含めた地域を支える活動を推
進していくことが強く求められてお
ります。

一昨年の商工会法施行50周年を経
て、今後の新たな50年に向けた礎を築
くにあたり、今年は、豊かな地域づく
りの核となるべく、商工会の二つの使命
を果たすことにより、組織力の一層の
強化に取り組む年にしたいと思つて
おります。

皆様の一層の支援とご協力を賜り
ますようお願い申し上げます。

終わりに、全国の商工会員の皆様並
びに関係各位にとりまして今年が明
るい一年となりますよう、心よりご祈
念申し上げます。

平成24年 元旦

県商工観光功労者表彰 (商工団体功労)

去る10月18日、県商工観光功労
者に対する表彰式が県庁知事室
で行われ、菅義治氏(もがみ南部
商工会会長)、野澤重徳氏(小国町
商工会監事)が受賞されました。

受賞者を代表し、菅義治氏が
「心を新たに所属団体の繁栄と県
産業のさら
なる発展に
取り組んで
いく」と謝
辞を述べま
した。

おめでと
うございま
す。



経営改善普及事業に関する 功労者表彰受賞者

◆中小企業庁長官表彰

○優良女性部

南陽市商工会女性部

○女性部功労者

丸森 典子(南陽市)

○優良常勤役員

高橋 秀利(山形県商工会連合会)

◆全国商工会連合会会長表彰

○役員功労者

多田 恵一(寒河江市)

戸田 孝一(尾花沢市)

奥山 春樹(山辺町)

後藤 泰博(山辺町)

渡辺 清志(山辺町)

岡田 清市(河辺町)

日下部 國雄(河辺町)

高橋 勝悦(河辺町)

佐藤 貞雄(河辺町)

渡辺 秀男(河辺町)

堀野 康児(河辺町)

鹿野 憲司(河辺町)

古川 嘉則(河陽市)

長沼 安義(河陽市)

山口 稔(河陽市)

伊藤 力榮(河陽市)

草岡 一郎(河陽市)

長岡 義博(河陽市)

大澤 正浩(河陽市)

松本 壽太(河陽市)

小野 由夫(河陽市)

堀口 吉男(河陽市)

富樫 和之(河陽市)

小野寺 光廣(河陽市)

三浦 英喜(河陽市)

本間 紀枝子(河陽市)

佐藤 清一(河陽市)

○青年部功労者

森 里史(東根市)

○女性部功労者

佐藤 恵子(庄内町)

八藤とよ子(もがみ北部)

事業推進優良商工会等表彰受賞者

◆創業・経営革新塾 出羽商工会

○創業・経営革新塾 出羽商工会

◆共済部門

○会員福祉共済 もがみ北部商工会

敬称略。()内は所属商工会等

商工会全国大会

第51回商工会全国大会が、去る11月24日「東京NHKホール」において、全国の商工会から約2,800名が参加し、開催されました。

本大会では、はじめに「東日本大震災からの復興を期して」と題し、被災三県からの報告等を確認するとともに、全国90万会員の総意と英知を結集し、重要課題の早期解決に向けた以下の五項目が採択されました。

- 一 東日本大震災被災地に対する継続的な支援の実施
- 二 地方に活力を与える景気対策の実行
- 三 中小・小規模企業対策の拡充及び支援体制の強化
- 四 まちづくりの支援、地域コミュニティ維持活動の強化
- 五 新たな50年に向けた商工会の組織力の強化

県内選出国会議員への陳情

第51回商工会全国大会終了後、国会議員会館を訪問し、山形県選出国会議員の遠藤利明氏、吉泉秀男氏、和嶋未希氏、鹿野道彦氏、加藤紘一氏、近藤洋介氏、舟山康江氏、渡辺孝男氏、岸宏一氏に、商工会全国大会で採択された大会決議に関する陳情書を渡し、決議事項実現について懇請しました。



地域力宣言2011 ニッポン全国物産展

全国の地域資源等を活用して開発された特産品を一室に集め、産業おこしによる地域経済の活性化・自立化に寄与することを目的とし、11月25日(金)～27日(日)にかけて、池袋サンシャインシティで『地域力宣言2011ニッポン全国物産展』が開催されました。

山形県からは9社が出展販売し、3日間の売上総額が2,358,660円となり全国第9位という成果を収めることができました。全体では382社が出展し3日間の来場者数は133,679名、売上総額は82,048,006円でありました。また、各県の地元の人々が慣れ親しんだおやつをコンセプトに第2回「全国47都道府県ご当地おやつランキング」も開催(山形県からは「どんどん焼き」)され、地元の自慢のおやつを求める方でイベントは大盛況となりました。

また、平成23年度むらおこし特産品コンテストにおいて審査員特別賞を受賞した白鷹町商工会員である(株)海老名製菓の「ごんぼ」(地域資源「岡の台ごんぼを練りこんだ、薫り高い、かりんとう風」揚げ饅頭)も展示され注目を集めました。



【山形県出展者の声】
他事業者の商品、販売方法を勉強でき活力をもらえた。今後の事業展開の可能性が見えた。
他事業者との情報交換、アイデア収集ができた。
新商品等のマーケティング情報が採販の目的がたつた。
物産展期間中に5社以上のバイヤーとコンタクトがとれた。



経営革新塾を開催

時代の変化が加速しつつある現在において、企業経営者に求められているのは経営革新の繰り返しと言われています。山形県商工会連合会では会員企業の経営革新を支援するために経営革新塾を県内6箇所で開催し、合計69名の企業経営者等が受講しました。

今回の経営革新塾で特に力を入れたのは経営革新計画やビジネスストーリーといった、自社の経営プランの作成を積極的にカリキュラムに取り入れた点です。週一回のペースで開催される経営革新塾では講義やケーススタディに終始するのではなく、翌週までに検討すべき自社の課題を明確にする方式によって、全日程を修了した受講者はかなり具体的な自社の経営プランを作成することができました。

今後受講者に対してフォローアップ講座を予定しており、商工会と連携して会員企業の経営革新の実現に取り組みます。



県議会議員と懇談会を開催

県議会商工観光常任委員会所属議員と県商工会連合会役員との懇談会が去る10月3日ホテルメトロポリタン山形で開催され、県内の中小企業の現状とこれからの商工会が果たす役割について話し合いがなされました。県議会からは、奥山誠治委員長、木村忠三副委員長、矢吹栄修委員、渡辺ゆり子委員、田澤伸一委員、星川純一委員、平弘造委員の7名の議員に出席頂き、県連合会からは、小野木会長以下14名の役員が出席しました。

はじめに、小野木会長及び奥山委員長の挨拶の後、県連伊藤専務理事が県内の中小企業の現状、商工会を取り巻く環境の変化等について説明を行いました。

意見交換会では、村山地区から矢口信哉副会長(東根市商工会)、最上地区から庄司正人理事(もがみ北部商工会)、置賜地区から松浦衛副会長(川西町商工会)、庄内地区から阿部武敏理事(庄内町商工会)が代表して意見を述べました。



山形県最低賃金が改定されました。
この最低賃金は、県内で働くすべての労働者に適用されます。

山形県最低賃金額

647円 1時間

【効力発生日】
平成23年10月29日

問合せ先
山形労働局労働基準部賃金室又は最寄りの労働基準監督署

もの・ばかもの

にとらわれない発想で打開している方々をご紹介します。

もがみ南部
商工会 株式会社トラベル東北
代表取締役 山口 スティーブさん



「東北の観光は再び輝く」

こんにちは。1960年アメリカ合衆国カンザス州生まれ、1994年に日本国籍を取得し、旅行業を営んでいます。

当最上町の高橋町長の英断により2泊3日の被災地無料招待プランを実施し、避難所までのバスや、町内温泉旅館の手配をしました。この経験で被災状況、被災者ニーズ、ボランティアの課題などを把握することができました。人口の集中地ほど物資やボランティアが多く、奥地に行けば行くほど少ないのです。

これらの現状を踏まえて、「被災地応援ボランティアツアー」を企画しました。ネットで個人を募集し、一つの団体に束ね、被災者の依頼を直接受け、仕事をしました。サラリーマンやOL、学生や家族でも参加しやすいように仙台発の土、日の1泊2日のツアーを企画、申込が絶えず、奥松島の海苔生産の早期再開などを手助けしています。助けてもらった漁師、参加したボランティアの喜びでツアーが見事に成り立っています。

着地型旅行をしている最上町の奥の細道ツアーなどはお客が集まりませんが来春には少しずつ元に戻るでしょう。

それまでは旅行業として被災地の応援事業をがんばって継続していきます。

もがみ北部
商工会 特定非営利活動法人やすらぎ福祉サービス
理事長 高橋 淳さん



「地域の輪づくり」

農業低迷による地域経済の低迷、結果として様々な閉塞感が漂っている中で、私たちは地域資源を有効に活用した地域資源戦略を取り組んでいます。第一義に意識していることは、社会的意義のある事項であるかという点です。地域内を見渡すと競業による切磋琢磨が限界に達し、むしろ協業していく必要性を強く感じています。その枠組みは、農業や商工業の枠を超えた事業の必要性です。鮭川地域資源戦略会議では、村行政を事務局に商工会やNPO、LLP、農業者など多様な主体が協力しながら中長期的視点にたった活動を展開中です。

一つの事例を紹介します。稲作中心の農業者は、原価を稼ぐだけでも大変な状況です。その農家経営を支援して所得を増やす。農家は、ゆとりができ里山の環境保全を行う。その環境をNPOなどが豊かさを具体的に証明し発信する。その結果、観光などに寄与できるという地域資源を人、モノ（資源）、経済でループを形成することが可能になります。先般もツアーを企画したり、テレビの特集を組んでいただいたり、首都圏で市場を開いたりとループづくりに励んでいます。

私は、福祉事業を本業としていますが、その事業も人がそこに生活してはじめて成立します。遠回りのように見えることも少なくありませんが、社会に、地域に必要とされる事業だからこそ成り立つという視点で今後も取り組んでいきたいと思えます。

中山町
商工会 プロティア
代表 安田 知彦さん



当社は、平成14年創業のパン製造小売業です。私が27歳の時に創業し、創業以来、「ペーカリーていあら」のブランド名でパンの無店舗販売（宅配事業）を行ってきました。山形県内のパン宅配業としては、比較的業歴が古く、営業範囲は庄内地域を除く県内全域と、宮城県の一部（川崎町、七ヶ宿町）にまで及んでいます。パンは100%中山町にある自社工場にて生産しており、焼き立てパンを宅配しています。

近年の事業環境変化へ対応する必要性を感じていた当社は、宅配事業から常設店舗開設による新規事業に取り組むことになりました。宅配事業の顧客から惣菜パンの充実と実店舗開設を望む声があったことから、県内初となるオーダーメイド調理パンの店頭販売事業を行うこととしました。

商品アイテムを日本人に愛着が深いコッペパンに特化し、店頭で顧客がパンも具材も自由に選んで組み合わせることができるオーダーメイド調理パン（コッペサンド）の販売システムを導入します。おいしい・安心・楽しいをコンセプトに、オーダーメイド調理パン（コッペサンド）を店頭にて顧客に提供します。

本事業は、平成23年11月10日付けで、山形県知事から中小企業新事業活動促進法に基づく経営革新計画として承認されました。現在、来年度の店舗開設に向けて準備を進めております。これにより、付加価値・経常利益の向上を目指し、当社の経営革新を進めていきます。

東根市
商工会 有限会社 しぶや 庄内浜天然旬魚しぶや
代表取締役 渋谷 和彦さん



3年前に後継者がドイツでの修業から戻るにあたり、30年間営んできた『料理処しぶや』を後継者に譲り渡しました。思い起こせば、自分が28歳の時に業態転換して経営方針を変換しようとした時、一番大きなハードルは父の存在でした。父は、長年やってきた鮮魚店を「商いは飽きないでやらなければならない」と語り、これからの新しい事業展開を説明しても理解してもらえませんでした。

山形県の“農商工連携事業”を知り、1年生としてチャレンジしました。『さくらんぼ豚の開発』の企画書を持って、県の窓口にお邪魔したところ、「この企画書もいいが、ぜひ“海”と組んでいただけませんか!」との提案を受けました。荒波に揉まれた庄内浜の地魚の素晴らしさは、長年料理の世界にいる自分としては以前から知っていましたが、「なんで内陸の自分が庄内の海とコラボレーションしなければならないんだろう」と疑問に思い、最初は躊躇しました。

しかし、それから冷蔵庫もない時代の人馬による六十里越の輸送や、最上川の舟運による輸送を通して生まれた、内陸ならではの“保存文化・熟成文化・発酵文化”に触れていくことにより、この提案にすっかりはまってしまい、山形県庄内産地魚を活用した“やまがた天然地魚漬け”の開発とブランド化事業を立ち上げました。今回、国の農商工連携事業としての認定もいただき、全国に、そしていずれは世界に“庄内浜の天然旬魚”をアピールしていきたいと考えています。

年頭にあたり課題山積みの2年生ですが、自分の中でイノベーションを続けながら飛躍したい年にしたいと励む所存です。

各地で地域や企業環境を取り巻く様々な問題を、固定観念

酒田ふれあい 有限会社 ストアー三吉
 商工会 代表取締役 佐藤 三幸さん



当社は、食料品小売業と仕出し業、弁当店の事業、併せてドラッグストア等と業務提携によるフード&ドラッグを展開しております。

8年前までは、スーパーマーケット(以下SM)部門と仕出しの2部門でしたが、大手SMやセレモニー会館等の影響で売上の頭打ち傾向に加え、主要道路のバイパス計画もあり、今後、売上確保が困難と判断し、宅配事業や支店を設ける方向に事業転換しました。

そして、3年前に仕出しの中で好調だった寿司、オードブルを中心とした宅配事業に取り組み、2年前にはSM部門で好調だった惣菜(弁当)だけの支店展開を始めました。

店名も弁当に特化した「三吉弁当」に変え酒田市中心にドミナント戦略を計画し、仕出し事業で余った設備と雇用を活用するため、センター化を図り生産し、低価格299円の弁当を販売する挑戦がスタートしました。

この取り組みが、ドラッグ業態の食品事業拡大戦略と合致し、現在酒田市内8箇所、北庄内で2店舗を運営する規模に拡大しています。その後、主要道路のバイパスが完成し、予想通りSM部門の売上は減少傾向となったものの、弁当やドラッグ店舗へのインストア事業等が功を奏し、店舗とセンターを拡張することが出来、現在当社の売上は、2年前の約2倍までに成長しました。

しかし、人材育成、商品開発、出店戦略の標準化、効率化を図るためにも、新たなセンター化への挑戦が課題となります。

センター化の強みは、高齢化する狭商圏(大手SMでは採算が合わないし小規模では力がない)への出店が可能になることと、惣菜、弁当事業プラス店舗の形態等の工夫により、大手あるいは中小と手を組むことで事業展開が図られ、地域に貢献できるという点です。

事業が拡大し、不安も期待も責任も拡大していますが、事業に携わった当初の信念を忘れずに新事業の確立を目指し、努力し続けていきたいと思っております。

事業が拡大し、不安も期待も責任も拡大していますが、事業に携わった当初の信念を忘れずに新事業の確立を目指し、努力し続けていきたいと思っております。

遊佐町 有限会社 鳥海山麓齋藤農場
 商工会 代表取締役 齋藤 武さん



私事ながら、1ターンの新規参入農家として遊佐町に入植してから、丸10年が経過しました。経営が軌道に乗ったわけではありませんが、やったんりの手ごたえは感じています。

ところで、この10年間絶え間なく聞こえているのは農家、非農家を問わず不景気で雇用の場がない、という定型句です。確かに各種統計指標からそれは間違いではないでしょう。でもそれって、ほとんど思考停止そのものではありませんか。私はこのあたりにずっと違和感をもっていました。

ちょっと考えてみましょう。雇用の場が少ないからそれを確保せよ、とはもっともらしく聞こえます。無論マクロ政策的には重要だと思えます。しかしこの思想は、働くということ即ち被雇用である、という型にはまった前提からきています。商工会所属の諸兄の自営業は全く無視されているのです。

あるいはやや極端な話になりますが、隣の都市に被雇用者として通う人にとって、寝に帰るだけの町や村には愛着が湧かなくなり、その人にとって地名に町や村が付くことは後進性の表れでしかなく、さっさと勤め先の都市と合併せよ、としか考えなくなり、地域興しなんて遠い星の出来事です。

地域で自ら仕事を創ることが出来る人材を地域自らが育成出来るのか、又はそのような人材が外から参入した際に不毛な障壁が除去されているのか。結局は私達の足元の地域というものが問われているような気がします。

地域で自ら仕事を創ることが出来る人材を地域自らが育成出来るのか、又はそのような人材が外から参入した際に不毛な障壁が除去されているのか。結局は私達の足元の地域というものが問われているような気がします。

南陽市 有限会社 酔太郎
 商工会 味見係長 ベルさん



「犬民の健康を願って」

吾輩は犬である。名前はベルと言う。犬生(人生)経験が豊富な高齢犬となり今までさまざまな病氣と闘ってきた。我が主人は南陽市赤湯のえくぼプラザ前で居酒屋

を営む有限会社酔太郎の代表取締役小林定広である。吾輩の食事は、主人のこだわりで少し高価な普通のドッグフードを与えられてきた。しかし、吾輩が病気で入院しその原因が食にあると指摘されたのをきっかけに、主人は食についての認識を新たにしたのである。すぐさま主人は自宅周辺の畑を初めて耕し、かぼちゃ・豆・芋などを苦勞して収穫し吾輩の食事を作ってくれたのであった。旨いし安全安心と信頼して毎日食した結果、すっかり元気を取り戻したのである。

氣をよくした犬バカな主人は、すぐにいろんな種類のドッグフードを試す。そして昨年11月、赤湯温泉通りに野菜の手づくりドッグフードを製造販売するお店「ドッグガレージ」を開店したのである。現在吾輩は、販売するドッグフードの味見係長の任務を与えられ、またお店には犬民が連日来訪されており楽しい日々を送っている。

もちろん、主人の本業である居酒屋の食材にも氣を配っており人気のお店となっている。<http://samidare.jp/yotaro/> で詳しく紹介している。

白鷹町 有限会社 すずき味噌店
 商工会 鈴木 徳則さん



「たかが芋煮されど芋煮」

(内陸人)「やっぱり、芋煮は醤油に牛だべ。豚と味噌だどなんか豚汁みだいだした。」

(庄内人)「そんなごとういあんば、内陸の芋煮はすき焼きみだいなもんだの。」

(最上人)「内陸と庄内ばりが芋煮んねべやにやー。最上になってあるんだじゅー。」

(とある先生)「皆さん。そこまであーだこーだ言うんだったら、元祖の芋煮は当然ご存知ですよね?」

(一同)「ガ・ン・ソ・イ・モ・ニ??。」

と、まあ、話っていたいここで終わってしまうものなのですが、ここまでいくとそうはいきません。じゃあ実際四つ並べてみればいいということになって…。あっちこっちに声をかけていざやってみると、県内だけでなく県外からも数十人の人達が面白がって集まってきて、最後はてんやわんやの大騒ぎ。結局は「なあ～んだ。どれもうまいもんだ。」という落ちが付いて終わるのですが。

無いものねだりではなく、あるもの探しに舵を切れば、起爆のスイッチはいくらでもあるような気がします。要は足元の宝物に導火線をはわせてボタンを押すか押さないかだけのことなのですが。

押せる人がもっと増えればいいなあ…。

青年部・女性部活動コーナー

東北六県・北海道商工会青年部員交流研修会が山形で開催



本県代表として主張発表した
加藤直勝さん

「去る11月15日、山形市の山形国際ホテルにおいて第18回東北六県・北海道商工会青年部員交流研修会を開催し、東北六県・北海道から約300名の青年部員が参加しました。交流研修会の中心となる主張発表東北・北海道ブロック大会では、各道・県の代表者が青年部活動や地域振興について熱弁をふるいました。その中で、東日本大震災後に青年部のネットワークを活かし、孤立して買い物などに不自由しているお年寄りを支援して感謝されたこと、そしてこの経験をきっかけに、絆の和を全国に広めたいと力強く語った宮城県代表の佐々木智徳さんが、見事最優秀賞に輝きました。本県代表・加藤直勝（もがみ）北部商工会青年部さんは優良賞を受賞しました。」

この他に、故・石原裕次郎さんのそっくりさんとして知られるタレントのゆうたろう氏の講演（演題：「地方の変革は若者の元氣から」）も行われました。芸能活動やビジネスを通しての成功・失敗談を取り入れながら「『負けないぞ』という気持ちが大事。未来は自分次第です。」と力説しました。

東日本大震災という未曾有の大災害に見舞われて大変な中の開催でしたが、青年部員同士の『絆』がより一層強まった一日となりました。

去る11月15日、山形市の山形国際ホテルにおいて第18回東北六県・北海道商工会青年部員交流研修会を開催し、東北六県・北海道から約300名の青年部員が参加しました。交流研修会の中心となる主張発表東北・北海道ブロック大会では、各道・県の代表者が青年部活動や地域振興について熱弁をふるいました。その中で、東日本大震災後に青年部のネットワークを活かし、孤立して買い物などに不自由しているお年寄りを支援して感謝されたこと、そしてこの経験をきっかけに、絆の和を全国に広めたいと力強く語った宮城県代表の佐々木智徳さんが、見事最優秀賞に輝きました。本県代表・加藤直勝（もがみ）北部商工会青年部さんは優良賞を受賞しました。

シリーズ 青年部長紹介

①事業所名 ②事業所所在地 ③業種



遊佐町商工会青年部

部長 佐々木 剛
(県青連理事)

- ①有遊佐電気工事
- ②遊佐町藤崎字茂森14-17
- ③電気工事業



白鷹町商工会青年部

部長 梅津 和則

- ①梅津サッシ
- ②白鷹町大字萩野199
- ③サッシ施工業



西川町商工会青年部

部長 菅野 一成

- ①千成興業(株)
- ②西川町大字間沢200-1
- ③建設業



寒河江市商工会青年部

部長 木村 洋祐
(県青連理事)

- ①(株)木村ぶつだん
- ②寒河江市本町2-2-14
- ③仏壇・仏具・神具・祭用品販売業



県青連・県女性連設立45周年記念の集い開催

去る10月25日(火)、県商工会青年部連合会と県商工会女性部連合会は、「山形県商工会青年部・女性部連合会設立45周年記念の集い」を、「希望・結末の時！〜地域経済を奮い起こせ〜」というテーマで、山形市のメトロポリタン山形を会場に開催しました。

第一部の記念式典では、小野木県商連会長、清野県青連会長、齋藤県女性連会長が挨拶し、来賓として宮窪大作全青連会長等から祝辞が述べられ、青年部・女性部活動に貢献のあった功労者15名に対し感謝状を贈呈しました。

第二部の記念講演では、峯田電器(株)の峯田季志社長より「小さな店の地域密着経営」と題し、小さな店が大型店に対抗するには、提案営業を中心とした地域密着経営の実践がいかに大切かについて、自らの体験にもとづき、わかりやすく語られました。

第三部の交流会では、以前県青連会長、県女性連会長を歴任された小林三十郎さん、神林守さん、渡邊重信さん、松本矩子さんのスピーチ、それにサプライズゲストとして「山形住みます芸人」でお馴染みの三浦友加さんが登場して会場を沸かせ、和やかな雰囲気の中に幕を閉じました。



峯田季志社長

シリーズ 女性部長紹介

①事業所名 ②事業所所在地 ③業種



村山市商工会女性部

部長 鈴木 和子

- ①有キッチン菜の花
- ②村山市橋岡五日町1-1
- ③製造小売業



中山町商工会女性部

部長 岸 信子

- ①有岸商店電機部
- ②中山町大字長崎115-3
- ③家電設置・修理・配電工事



川西町商工会女性部

部長 高橋 冷子

- ①正直屋
- ②川西町上小松1470
- ③小売業



遊佐町商工会女性部

部長 高橋 シズ子

- ①割烹 富士屋
- ②遊佐町遊佐字京田15
- ③飲食業

県産品を首都圏へ売り出せ！ 商談会を開催

平成23年度山形県産食品等販路開拓支援事業の一環として、県内の食品製造業者等の選りすぐりの商品を首都圏へ売り出すことを目的に、12月8日、山形市のメトロポリタン山形において商談会を開催しました。

県内事業者19社参加の下、中堅規模のこだわり商品を取り扱う10社のバイヤーを招き、全体で80商談を行いました。参加者は1回20分の商談時間の中、11月10日の事前セミナーで学んだ商品の売り込み方に関するノウハウを活かして積極的にセールスを行いました。

事前の売り手企業と買手企業のマッチングが効果的で、商談の内容もより具体的で踏み込んだものとなりました。今後どれだけ成約に結びつくかが大いに期待されます。



商工会のお奨め共済「手頃な掛金、手厚い保障」の全国商工会会員福祉共済

傷害プランの場合 今回は、**傷害プラン、傷害プラン+医療特約**に絞ってメリットをご紹介します

その①

掛金是一律

- ◎毎月2,000円のお手頃掛金です
- ◎年齢・性別・職種にかかわらず一律掛金です

その②

告知が不要

- ◎満6歳～満80歳まで、性別を問わずどなたでも加入できます（継続加入は満85歳まで）

その③

請求がシンプル

- ◎商工会職員が迅速な対応
- ◎10万円以下の請求ならばスピーディーな共済金支払
- ◎通院ならば、原則として領収書、診察券のコピーでOK

その④

天災でも補償

- ◎地震もしくは噴火またはこれらによる津波にも対応

その⑤

日帰り入院から補償

その⑥

仕事中・仕事以外でも、国内外を問わず24時間フルカバー

更に、傷害プランに医療特約を追加すれば…

医療も掛金是一律

- ◎毎月1,000円追加のお手頃掛金です
- ◎年齢・性別・職種にかかわらず一律掛金です（告知が必要です）

先進医療も補償

- ◎治療の選択肢が増えます。
- ◎全額自己負担となる所定の先進医療を受けたとき、何でも補償。通算支払限度はありません。実質実費の半額程度の支払で治療を受けることができます。

継続加入で将来への不安を軽減

- ◎満6歳～満74歳まで、性別を問わず加入できます（告知が必要です）（継続加入は満80歳まで）

「あなたも家族もまるごと守る」全国商工会会員福祉共済は、商工会員だからこそ加入できる特別な制度です。現在、全国10万人の皆さまにご利用いただいています。

他にも充実保障の3,000円コース、4,000円コース…などなど、もっとご紹介したいメニューがたくさんあります。

詳しくは商工会へ

連鎖倒産から中小企業を守ります

「中小企業倒産防止共済」が改正されました
平成23年10月1日改正

- ◎共済金の貸付限度額が8,000万円にUP
- ◎掛金月額の上限度額が20万円にUP
- ◎償還期間が貸付額に応じて5～7年に設定
- ◎掛金の積立限度額が800万円にUP
- ◎共済事由に「私的整理」が追加
- ◎早期償還手当金の創設

◆詳しくは商工会へ◆

企業の経営者様と従業員を守る
商工貯蓄共済付加保障制度です。

商工
貯蓄共済制度
貯蓄保障融資

商工貯蓄共済
付加保障制度

商工貯蓄共済
医療保障
特約型



Gibraltar
ジブラルタ生命

* 保障部分はジブラルタ生命がお引き受けしております

ジブラルタ生命保険株式会社 山形エリア

山形市本町1丁目4-27 TEL023-623-0160 <http://www.gib-life.co.jp/>

専門家(税理士・弁護士など)のアドバイスで経営課題を解決!

エキスパートバンク

秘密厳守! 1回までは無料!

商工会では会員企業の繁栄のために専門家派遣事業を実施しています。
詳しくはお近くの商工会へ

ネットde記帳とはインターネットを利用した 会計・経理処理システムです

商工会の記帳指導について



ネットde記帳の利用メリット

- メリット1 ソフトウェアのインストール不要
- メリット2 場所を選ばずいつでもアクセス可能
- メリット3 暗号化データで情報漏洩防止
- メリット4 万全のバックアップ・サポート体制
- メリット5 税制改正にも素早く対応

「ネットde記帳」に関するお問い合わせ、お申込みはお近くの商工会へ

商工会では、記帳、決算等に
関する専門的な相談指導も行っています。

- 記帳指導
商工会が仕訳など記帳の方法を指導します!
- 記帳代行指導
商工会が伝票入力や帳簿作成などを代行します!
- 決算・財務分析指導
商工会が決算・財務分析を指導します!
また、決算申告期には、税理士の先生が商工会において、税務相談に応じしています。

県内統一景況調査報告

[平成23年10~11月期]

調査対象：山形県内24商工会地域の企業
(原則として1商工会あたり15企業)

調査時点：平成23年11月15日

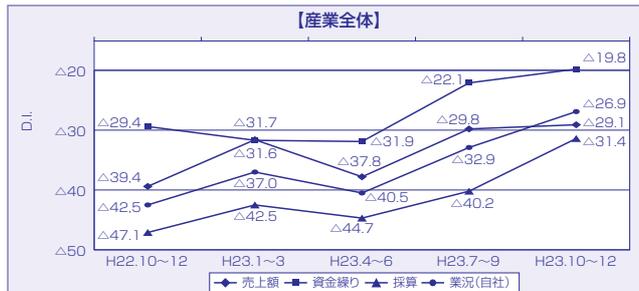
調査方法：商工会経営指導員による企業への訪問ヒアリング調査

※D.I.とは、ディフュージョン・インデックス

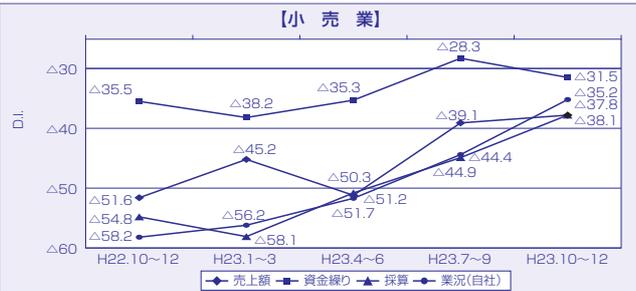
(景気動向指数)の略で、以下により算出しております。

D.I.=[各項目の増加(上昇・好転)企業割合(%)]

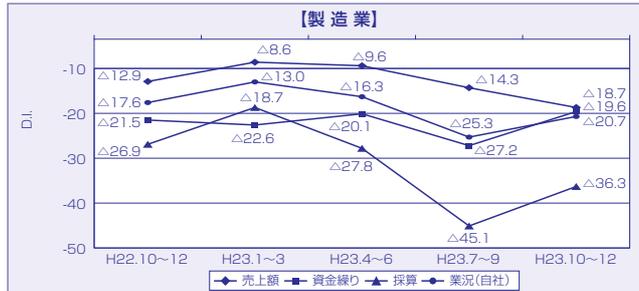
- [各項目の減少(低下・悪化)企業割合(%)]



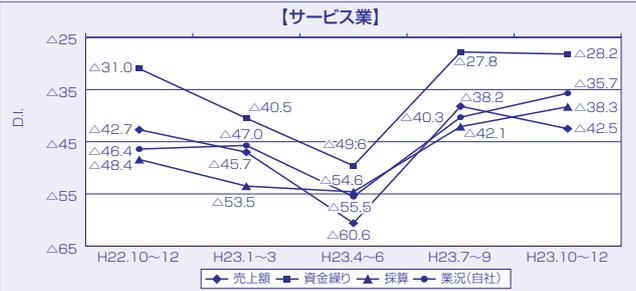
県下商工会地区における今期(平成23年10~12月期)の景況調査によるとD.I(景気動向指数・前年同期比)はいずれも好転している。しかし、震災後の回復状態は業種によって格差が見られ、円高やタイの洪水、欧州の信用不安など、今後の不安要素も多く停滞感も否めない。デフレ基調による価格の下落が企業の収益を圧迫していることも大きな懸念材料である。



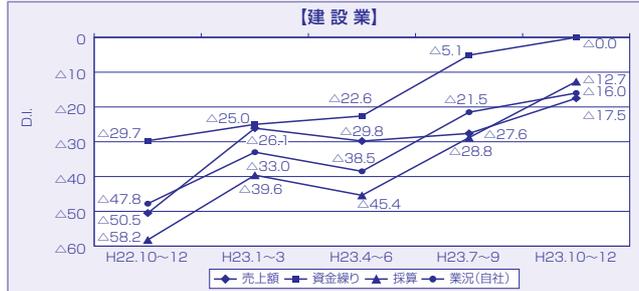
自粛ムードの反動から、自分への「ごほうび消費」により、高額商品が売れているが、家電全体を底上げしてきた地上デジタルに伴うテレビの買い替え需要が収束するなど、決して楽観できる状況ではない。株価低迷や円高、欧州の信用不安などが消費者心理に微妙な影を落としており、生鮮食品の仕入価格高騰や風評被害による販売価格の低下が収益を圧迫している。



自動車関連部品やスマートフォン関連で電子部品・デバイス等が順調に推移する一方で、テレビの買い替え需要の収束などにより情報通信機械が低迷、また依然続く歴史的な円高により海外シフトが加速し、受注単価の減少も見受けられ、先行きが不透明である。印刷業界では、震災の影響で仙台から参入する企業が増え、競争が激しくなっている。



震災の風評被害により激減した県外からの観光客は戻りつつあるものの、未だ震災以前の水準には戻っておらず厳しい声が聞かれる。円高など、経済情勢に不安要素が多いことから節約志向が高まり、特にレジャー関係が振るわない。クリーニング業では、景気低迷により企業からの仕事が減っており、理美容業では、カットのみの顧客が増え客単価が減少している。



県内の新設住宅着工戸数(前年度比)が4ヵ月連続で増加、震災対応で需要が増えるなどの好材料があり、全指標が好転し、求人数も伸びている。ただ、10月の新設住宅着工数がダウンし、仕入れ価格も上昇するなどの懸念材料もあり、需要の変動が激しい冬場にかけての仕事確保が鍵になると思われる。